

氏名 **村田 憲 亮** 助教



主な研究テーマ

□体操競技における技のモルフォロギー的研究

平成22年度の研究内容とその成果

近年、体操競技において日本男子選手の跳馬のレベルアップが急務とされています。Dスコア7.0以上の跳越技の一つにカサマツとび系の「伸身カサマツとび2回ひねり（ロペス）」と呼ばれる技があります。カサマツとび系の発展技の中でも最も難しいとされる「ロペス」の習得に必要な技術を探るため「伸身カサマツとび1回ひねり（アカピアン）」と「ロペス」の比較考察を通して、「ロペス」の技術的発展性を明らかにすることにより、実践現場へ貢献できるものと考えました。

「ロペス」の運動構造は、助走から踏み切りをし、第一空中局面で1／4ひねりを行い着手し、跳馬を突き放し、離手後の第

二空中局面において、2回と3／4のひねりを行って着地する技です。

「ロペス」の運動経過を観察すると、「アカピアン」と比べ、着手から離手局面に大きな違いが見られました。また高さといねり技術にも違いがみられました。そこで本研究は、「アカピアン」と「ロペス」を習得している被験者2名と「アカピアン」のみ習得している被験者3名を選出し、「アカピアン」と「ロペス」の技術解明を目的とし、モルフォロギー的観点から比較考察を行いました。

本研究により、次のことが明らかになりました。

1. 着手局面では跳馬上部水平線に対し、低い姿勢で着手し、倒立位よりも手前で



図1 「ロペスの運動経過図」

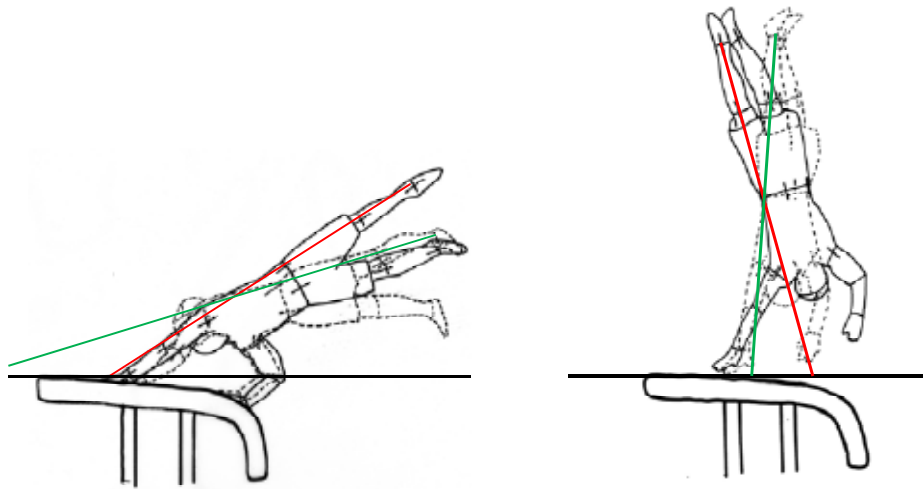


図2 熟練者と未熟練者の着手と離手局面図①（点線が熟練者）

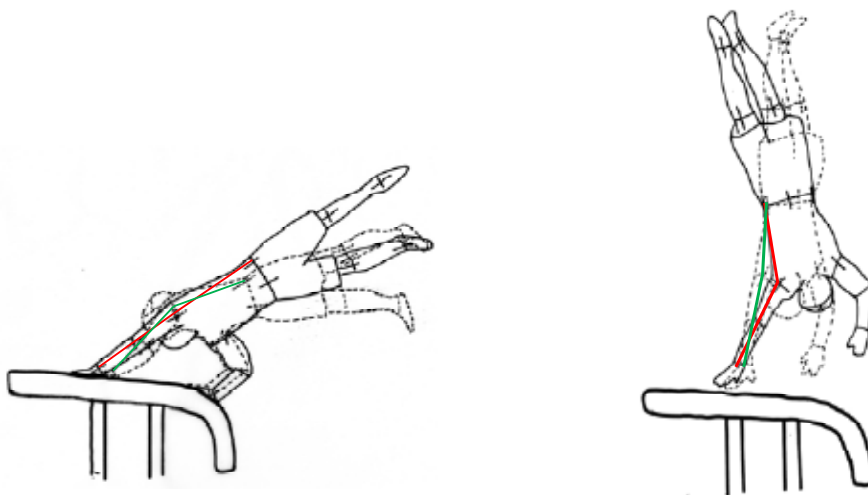


図3 熟練者と未熟練者の着手と離手局面図②（点線が熟練者）

離手を行うこと。また「ロペス」の実施においては「アカピアン」よりも手前で離手を行うこと。このことにより、第二空中局面の高さとひねり動作を効率よく助長している。


2. 着手の際、肩角度を小さくすること。離手の際、身体と腕がまっすぐ一直線に近い状態で「つき」動作を行うこと。このことにより、第二空中局面の高さを効

率よく助長している。

以上のことが運動質の高い「アカピアン」と「ロペス」を行う際の技術的な相違であることが示唆されました。

これからの研究の展望

男子跳馬では前転とび系の着手から空中局面において3回ひねりを行うことは不可能とされてきましたが、今季、韓国の選手



が前転とび伸身2回宙返り3回ひねり「クエルボとび2と½回ひねり」を発表し話題となりました。「カサマツとび」と「クエルボとび」はひねり回数が増すほどに運動経過や構造が類似運動のように捉えることができます。よって「ロベス」に½ひねりを加えたカサマツとび2と½ひねりの開発が可能であると考えられるようになります。この新技に挑み、運動構造や経過をモルフォロギー的研究を通して明らかにしたいと考えています。